

最新 信州クマ事情

～研究所・JBN 公開シンポジウムから～

岸元 良輔

去る2012年10月20日に、環境保全研究所・日本クマネットワーク(JBN)主催、信州ツキノワグマ研究会共催で、公開シンポジウム「山のクマ・里のクマ」を開催しました。近年、クマが人里に出没するようになり問題になっていますが、ほとんどのクマは山の中でひっそりと生活しています。そこで、高山帯から里山・里地まで利用するクマおよび人里にまで出没してしまうクマに焦点を当て、これまで県内の研究者によって蓄積されてきた信州のクマの研究を紹介し、クマと人との良好な関係を保つためにどうすればよいか考えることを趣旨としました。

折しも10月5日に長野市街地にクマが出没して全国ニュースになりましたが、じつは、このようなことがいつ起きても不思議ではない背景がもうできあがっています。昔は里山が人に利用されて開けた環境だったのですが、今は放置されてクマなどの野生動物が生息できる環境に変わっています。このため、市街地に接する山裾までクマの生息地が広がってきています。実際に、今回の会場となった飯綱高原は長野市街地から標高差が700mありますが、ちょうどその斜面がクマの生息地です。今回のシンポジウ

ムでは、人里周辺まで下りてくるけれども被害を出さないクマ、農作物や牛舎の飼料に餌付いてしまったクマなど、様々なタイプのクマの行動が発表されました。研究所からは、駆除されたクマの平均年齢がだんだんと高くなっていることから、人里周辺にまでクマの自然の個体群ができあがっているかもしれないとのことを発表しました。



公開シンポジウムの様子

こんな本みつけた!

読書案内

「新版 妙高は噴火するか」

早津賢二 著

(新潟日報事業社、1400円+税、2012年9月発行)

長野と新潟の県境近くには、飯綱山、斑尾山、黒姫山、妙高山といった火山が集まっています。本書のテーマにある妙高というのは、この火山群を代表する巨大な火山体の名前です。新潟県妙高市在住の著者は、妙高火山群の活動史解明をライフワークとし、これまで40数年にわたり独自の研究を続けてこられた火山学者です。本書には、数十万年にもおよぶ妙高火山の壮大な生い立ちや、火山と私たちの暮らしとの関わりが紹介されています。文章は一般向けにやさしく書かれていますが、綿密なフィールドワークに裏付けられた説明は具体的で、簡潔であり、隙がありません。しかも火山に関する最新の知見がいたるところに盛り込まれています。本書を読むと、妙高火山のことがわかるだけではなく、ひとつの火山にとことん向き合うことは、多様な顔をみせる火山がもつ、普遍的な特徴や魅力を理解する近道になるということに、読者もきつと

気がつくことと思います。

火山は観光や水資源、あるいは多様な生物相など、自然の恵みをもたらす地域の財産です。その一方で、ひとたび噴火すれば大きな災害につながる危険もあります。浅間山や焼岳など、長野県内にも近い将来噴火を起こす可能性の高い火山があります。世界有数の火山国に住む私たちが、自然とともに暮らしながら賢明に生きていくためには、身近な火山を知ることがとても大切です。さて「妙高は噴火するか」、その答えはいかに…。



(紹介者 富樫 均)